

2023 年 7 月 2 日

《特別編》

毎週第 1 日曜日はネパール語ラジオ「いち・に・サントス」ですが、今月は第 5 日曜日になったので、今日は「あなたの隣の外国人 特別編」をお送りしました。

今日のゲストは、

マダネ アブダッラさん（シリア国籍）

帝京大学 理工学部

情報電子工学科 3 年生 と

工藤 祐輔さん（マレーシア国籍と日本国籍）

帝京大学 理工学部

バイオサイエンス学科 3 年

そして、帝京大学国際交流チームの渡邊暁娜先生をお迎えしました。

みなさん、自分の母語以外にも、3 カ国語くらい話せるそうです。コツは交流をしてたくさん経験することだそうです。それからモチベーションのようです。私の周りは日本語が話せる方が多く、モチベーションが上がらない😓（言い訳です）。

そして、お二人がなぜそんなにたくさんの言葉が話せるのか、お二人のルーツについてうかがいました。マダネさんは、シリアで生まれ中学生までアラビア語で過ごし、内戦の影響もありその後、サウジアラビアへ。そこもアラビア語だったそうですが、シリアのアラビア語とは違って大変だったそうです。その後、トルコに移りトルコ語を習得。そして、情報関係を日本で学ぶという夢を叶えるため来日。日本語を一から勉強して、今に至るそうです。もちろん英語はずっと勉強してるそうです。

工藤さんは、お父様が日本、お母様がマレーシアだそうです。お父様とは日本語、お母様とは中国語で話している…そうなんです。マレーシアは多民族国家。お母様は中華系マレーシアの方だそうです。マレーシアには、中華系、マレー系、インド系の方が多いそうです。マレー語は家の外では使うので日常会話は OK。そしてもちろん英語も。

たくさんの言葉が話せるということに憧れる気持ちもありますが、たくさんの言葉が話せるということは、たくさんの言語を習得しなかったと捉えることもできます。もっと世界のことを学ばなければと思いました。

渡邊先生は、前回の日本語カフェに韓国の留学生を連れて参加してくださいました。その時、知り合った方と山登りなどをされているそうです。あのイベントがきっかけで繋がってくださっているのは本当に嬉しいことです。次回の日本語カフェもそうい

う繋がりができたらと思います。

最後に学生2人に夢を聞きました。

マダネさんは、人生で困っている人たちの希望になりたいと。自分ががんばって夢を

叶えることで今困っている人が自分を希望としてくれたらいいと言っていました。

夢があるというより、夢の中にいるんだという言葉が印象的でした。

工藤さんは、人の役に立ちたいと。お母様が乳がんになられた時、がん患者を治すた

めの研究がしたいと思ったそうです。それと同時に、「人生は短い。楽しまない」と

思ったそうで、研究はもちろん、好きなスポーツをして「楽しんでいる」そうです。

お二人とも明るく楽しい青年でしたが、経験から学んでいること、考えていることが

大きく、深いなと感じました。私たちが彼らに直接できることは少ないのですが、こ

ういう人たちがいるということに想いを寄せることが大切だと深く考えた1時間でした。

た。

次回の「あなたの隣の外国人」は、7月23日。「いち・に・サントス」は30日です。

ぜひお聴きください！











[2 件以上](#)

インサイトと広告を見る

投稿を宣伝

すべてのリアクション:

14 あなた、他 13 人